

第1回不妊に悩む方への  
特定治療支援事業等の  
あり方に関する検討会  
平成25年5月2日  
厚生労働省

# 生殖補助医療の現状からみた 特定不妊治療助成のあり方

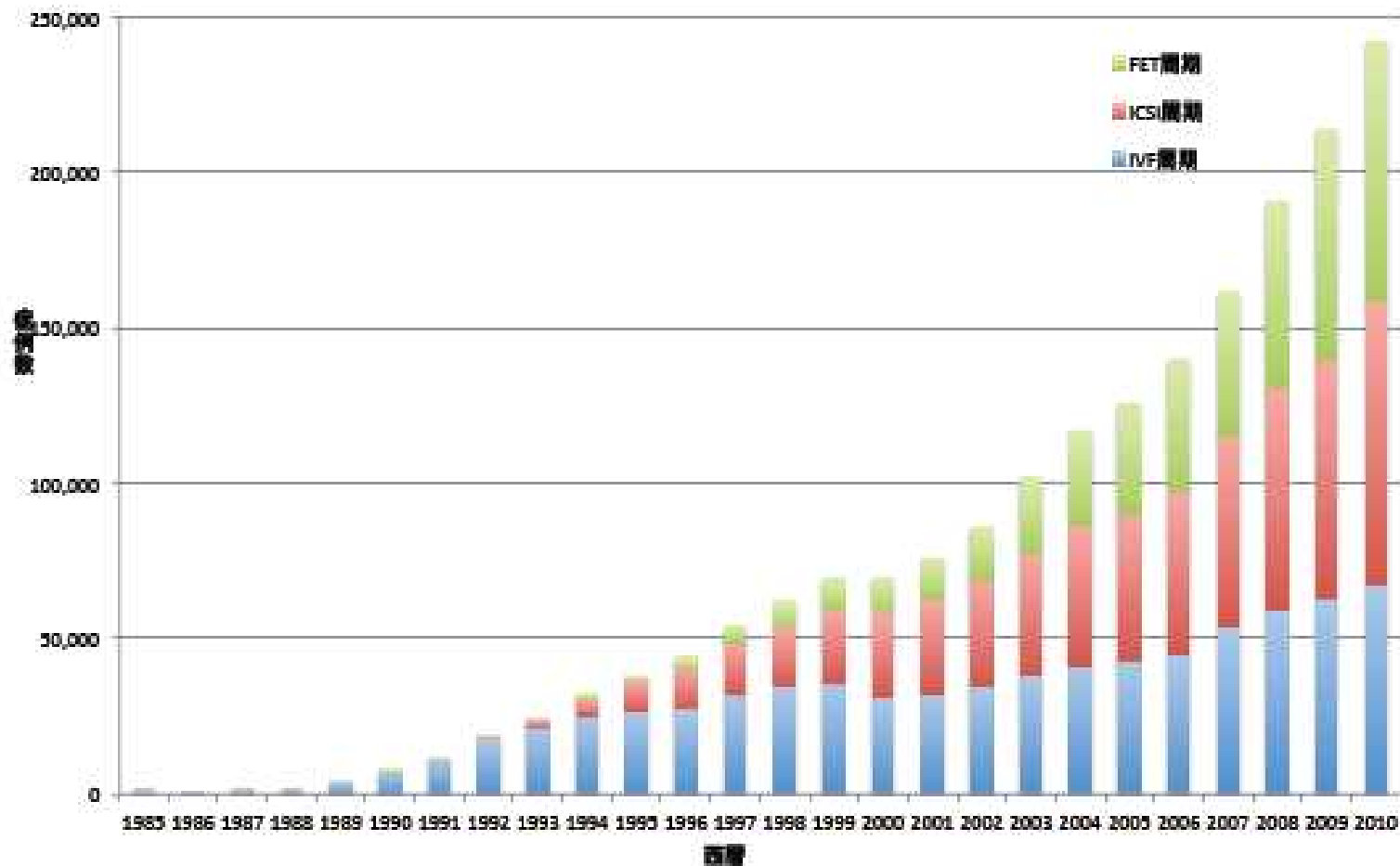
# 生殖補助医療の現状

## 検討資料

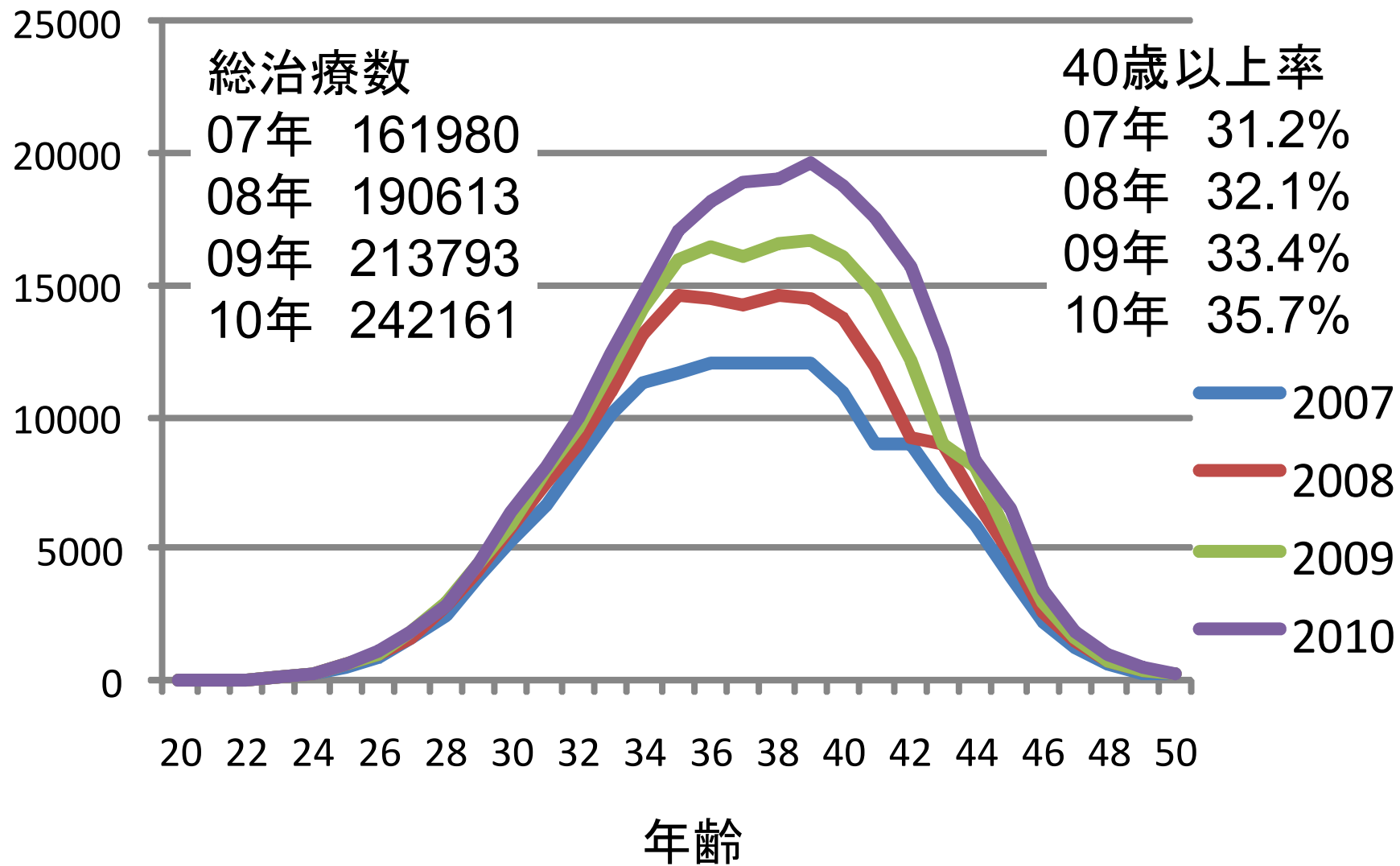
- ①日本産科婦人科学会：  
倫理委員会 登録・調査小委員会報告  
ART臨床実施成績
  
- ②国立成育医療研究センター：  
ART臨床実施成績  
2006-2008年に初めてART治療を開始した179症例  
の5年間の治療

# 年別 治療周期数

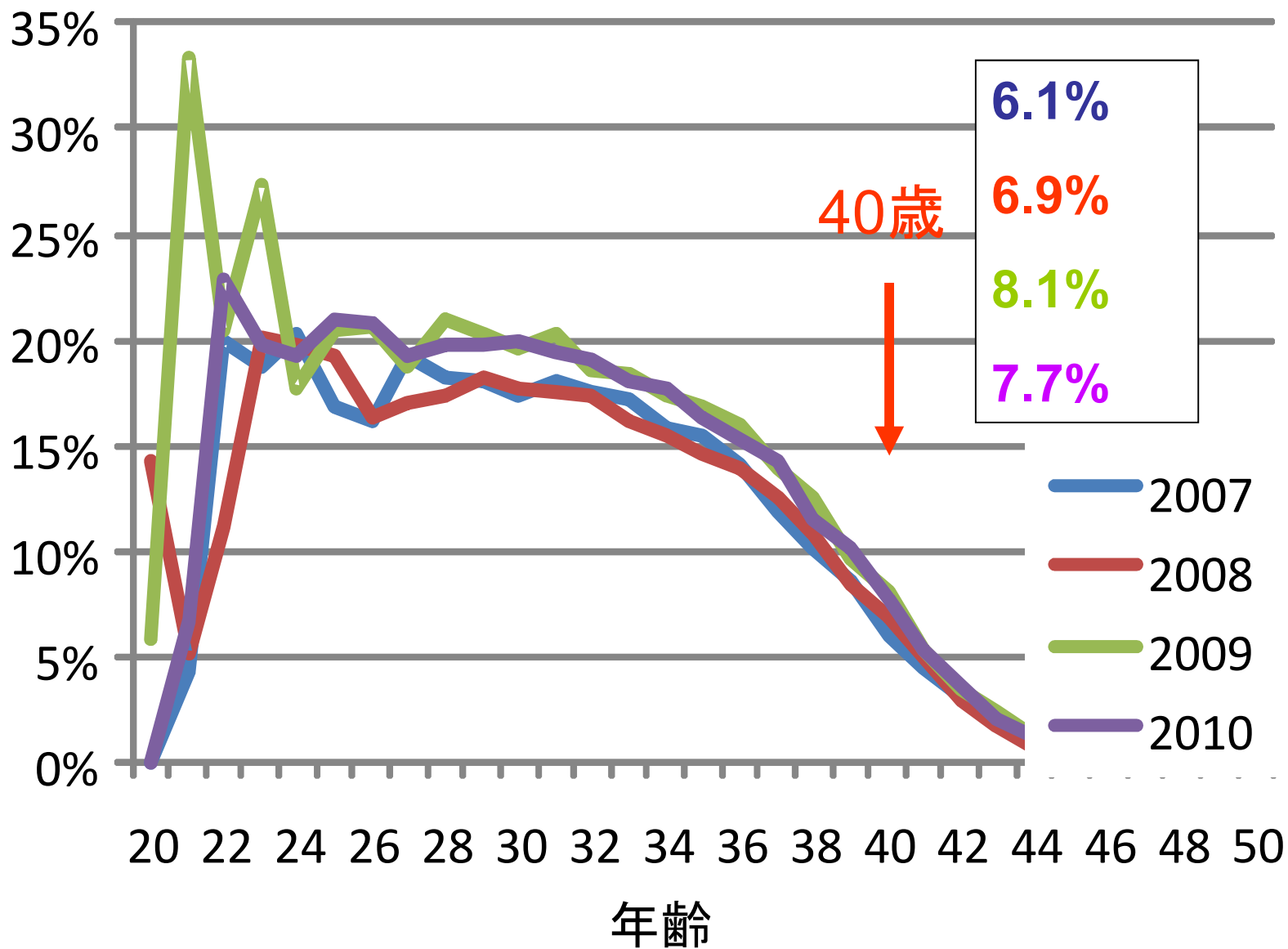
242161



# 生殖補助医療治療数



# 年次別治療開始周期あたりの生産率



## 当科初回ARTより5年間のART件数

	症例数	割合(%)
1回のみ	60	31.3
2回まで	29	17.9
3回まで	28	14.7
4回まで	14	8.9
5回まで	14	8.9
6回まで	10	5.4
7回まで	7	4.0
8回まで	5	2.7
9回まで	4	2.2
10回まで	0	0.4
11回以上	8	3.6

特定不妊治療助成金を申請している症例数  
： 36症例（/179症例20.1%）

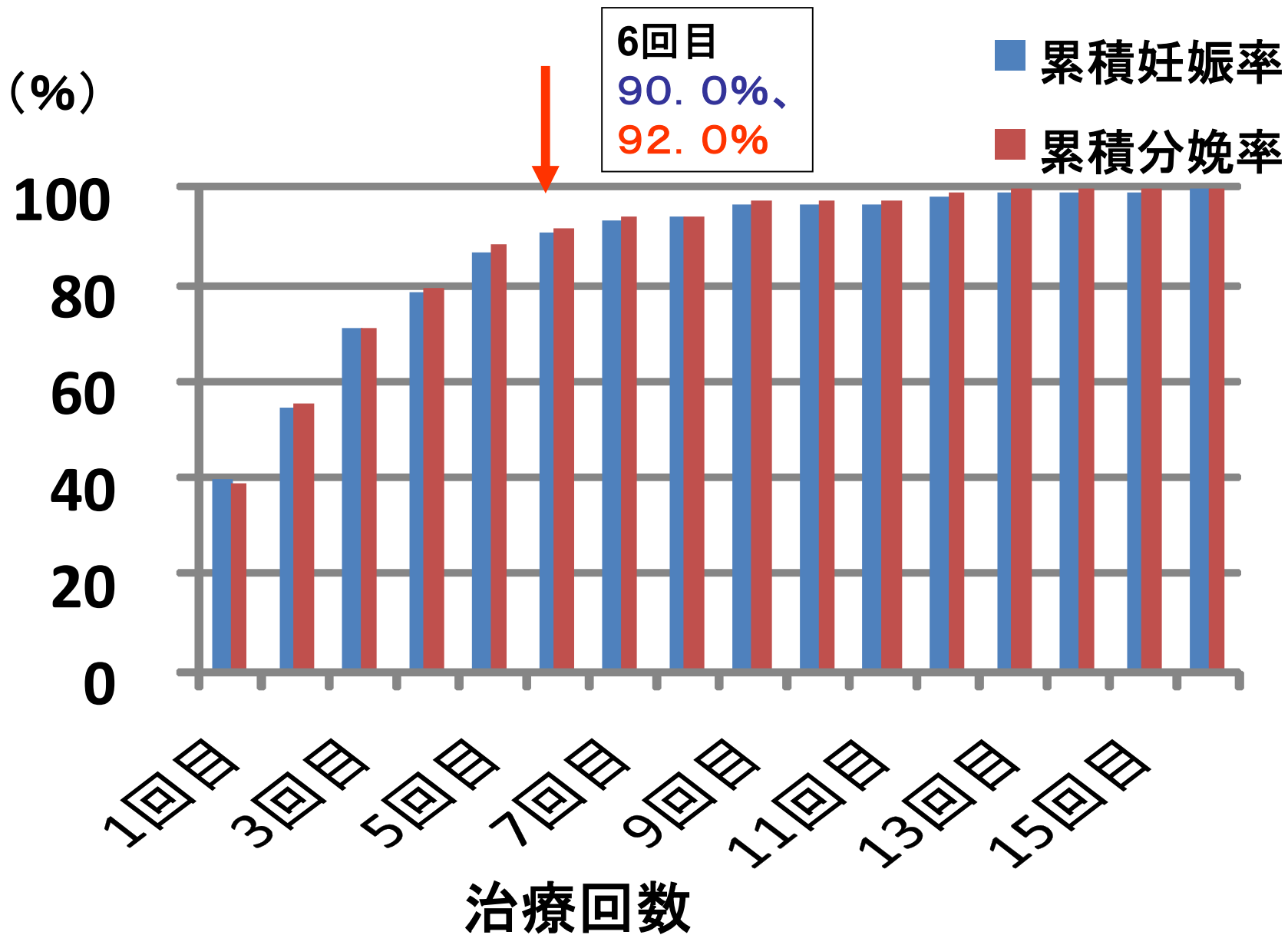
治療回数	症例数	割合(%)
1回のみ	12	33.3
2回まで	8	22.2
3回まで	6	16.7
4回まで	4	11.1
5回まで	3	8.3
6回まで	2	5.6
8回まで	1	2.8



## 治療回数と治療開始からの年月の関連

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	total
1回目	179					179
2回目	70	40	6	3	0	119
3回目	26	47	7	9	1	90
4回目	11	36	7	6	2	62
5回目	7	27	11	2	1	48
6回目	1	20	8	3	2	34
7回目	0	13	7	3	1	24
8回目	0	10	4	3	0	17
9回目	0	5	5	2	0	12
10回目	0	3	3	1	0	7
11回以上	0	4	17	18	13	52
治療合計	294	205	75	50	20	644

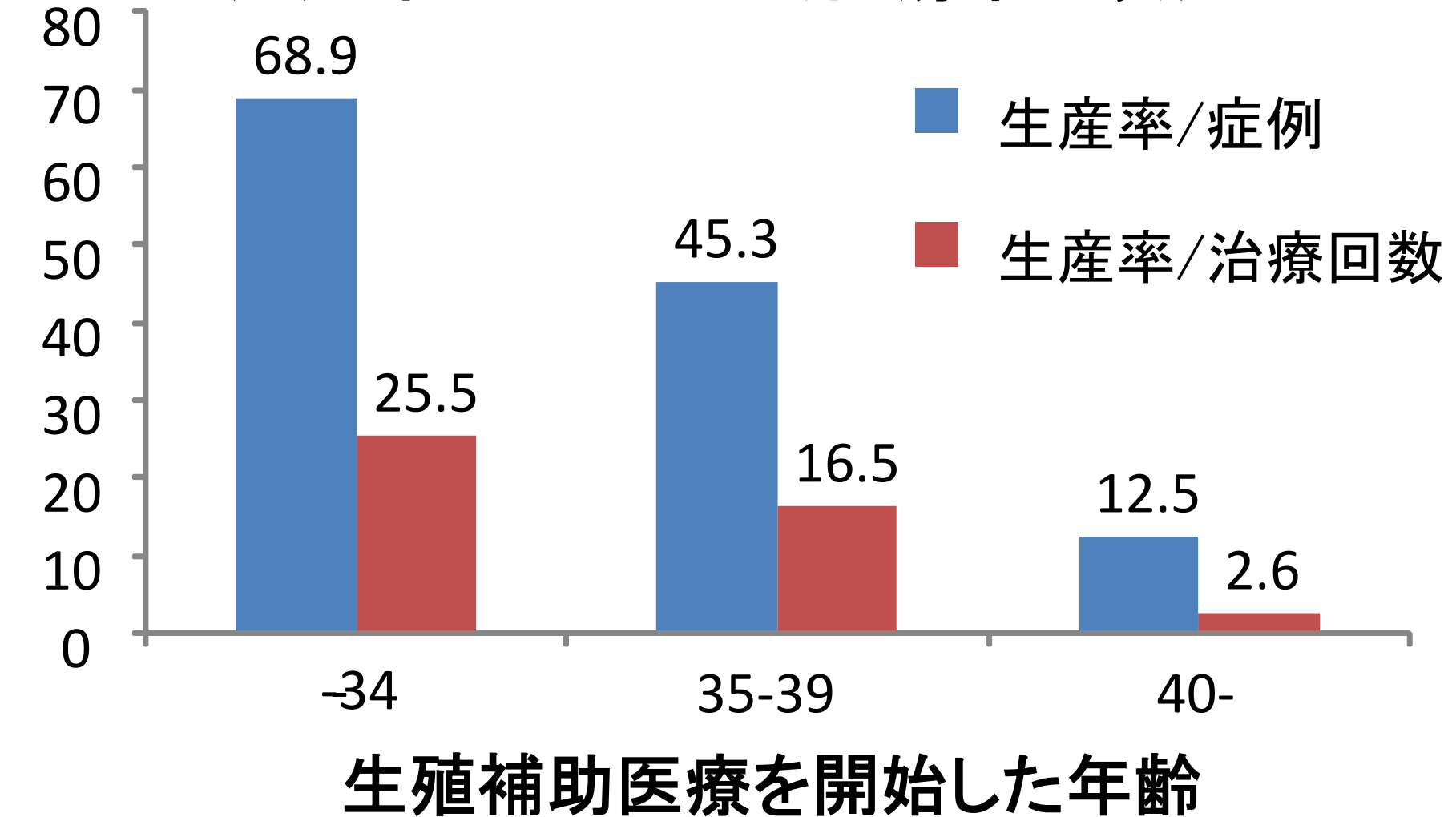
# 累積妊娠率・累積分娩率(全妊娠・全出産あたり)



# 治療開始年齢別生産率

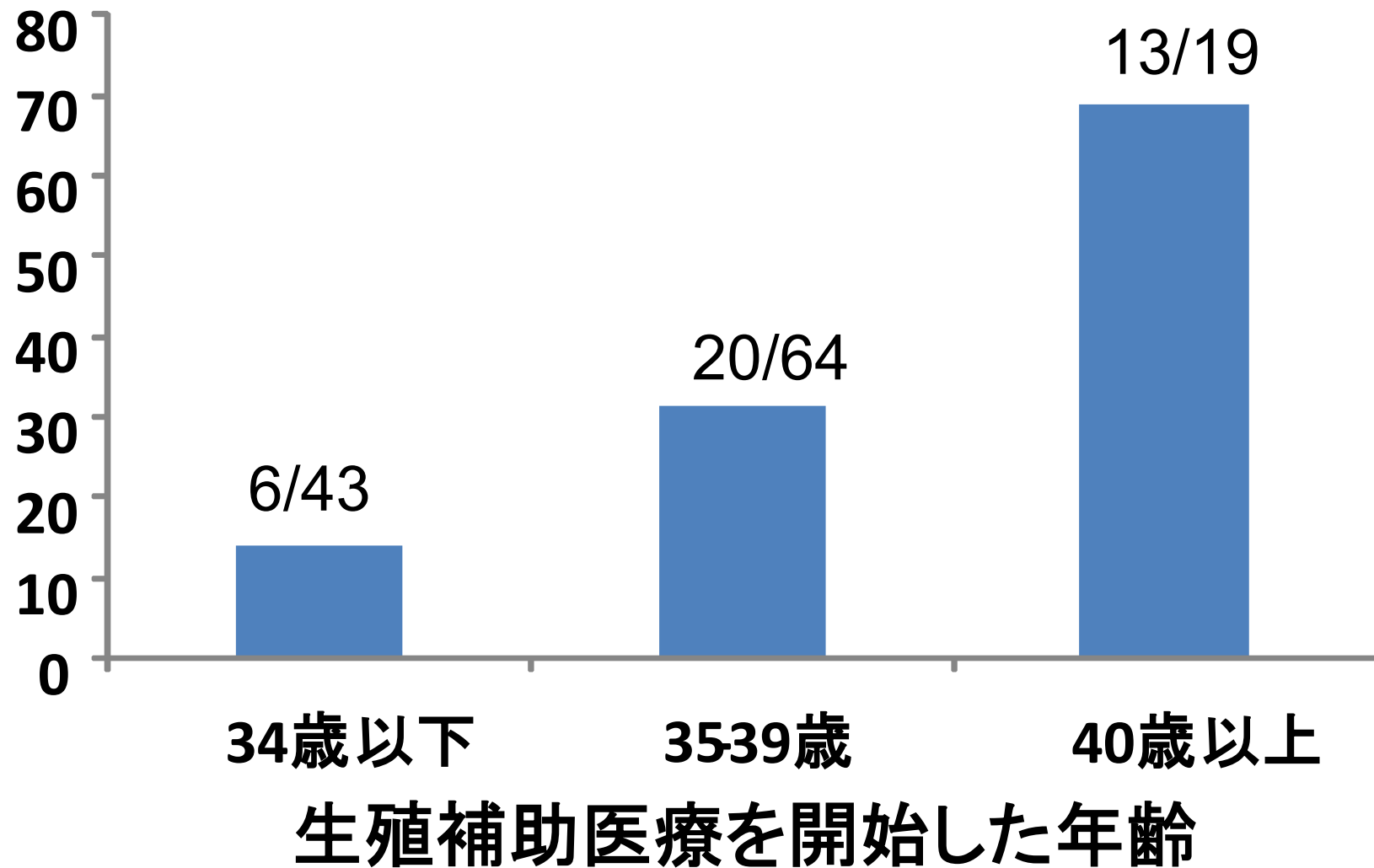
(%)

(/症例または/治療回数)



# 治療開始年齢別流産率(全妊娠あたり)

(%)



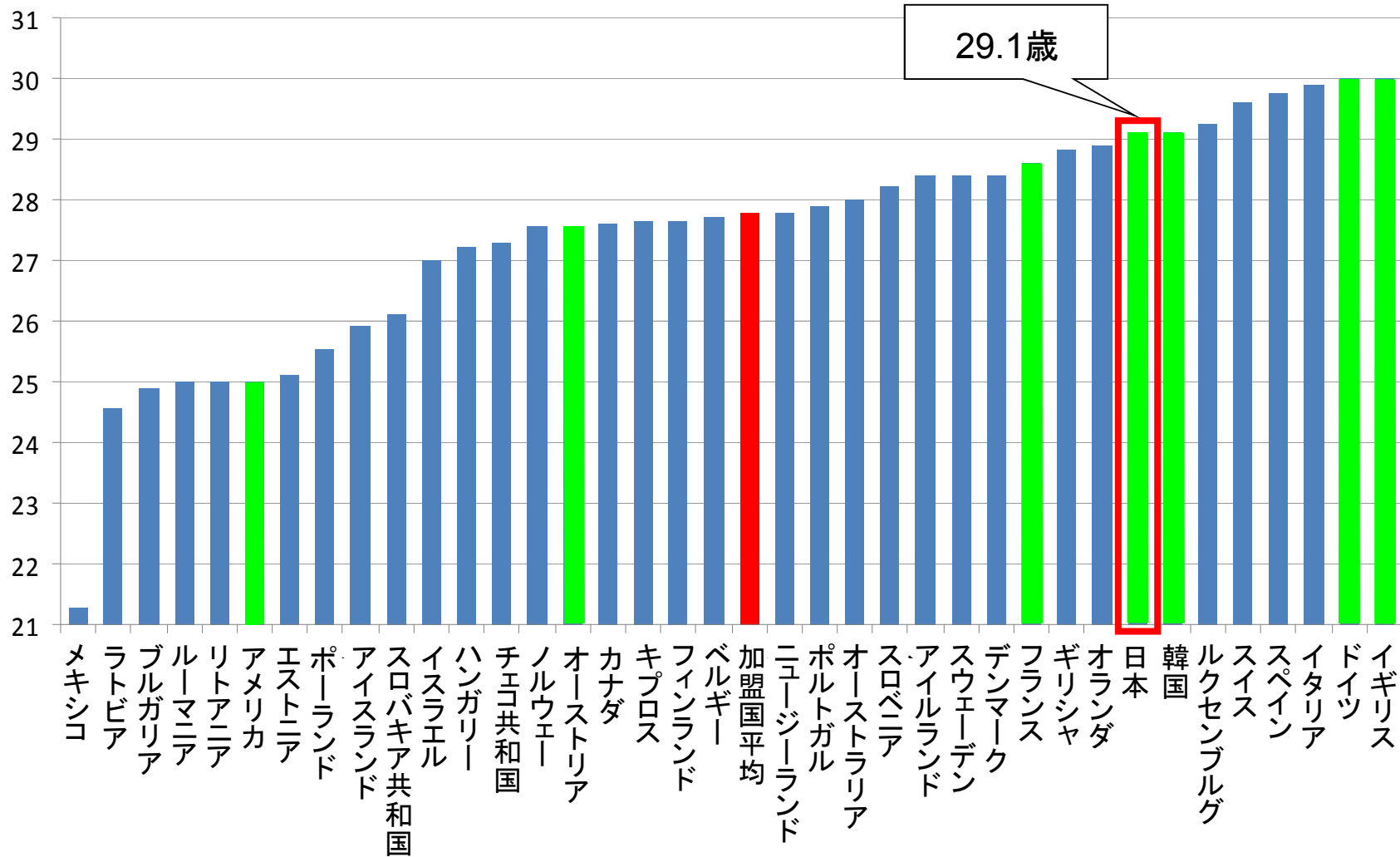
# 本邦の結婚・出産の現状 と妊娠適齢期とのずれ

# 女性の初婚と第1子出生時の平均年齢の変化

年次	妻の平均初婚年齢(歳)	母の第1子出生時平均年齢(歳)
1989年(平成元年)	25.8	27.0
1990年	25.9	27.0
1991年	25.9	27.1
1992年	26.0	27.1
1993年	26.1	27.2
1994年	26.2	27.4
1995年	26.3	27.5
1996年	26.4	27.6
1997年	26.6	27.7
1998年(平成10年)	26.7	27.8
1999年	26.8	27.9
2000年	27.0	28.0
2001年	27.2	28.2
2002年	27.4	28.3
2003年	27.6	28.6
2004年	27.8	28.9
2005年	28.0	29.1
2006年	28.2	29.2
2007年	28.3	29.4
2008年	28.5	29.5
2009年	28.6	29.7
2010年(平成22年)	28.8	29.9

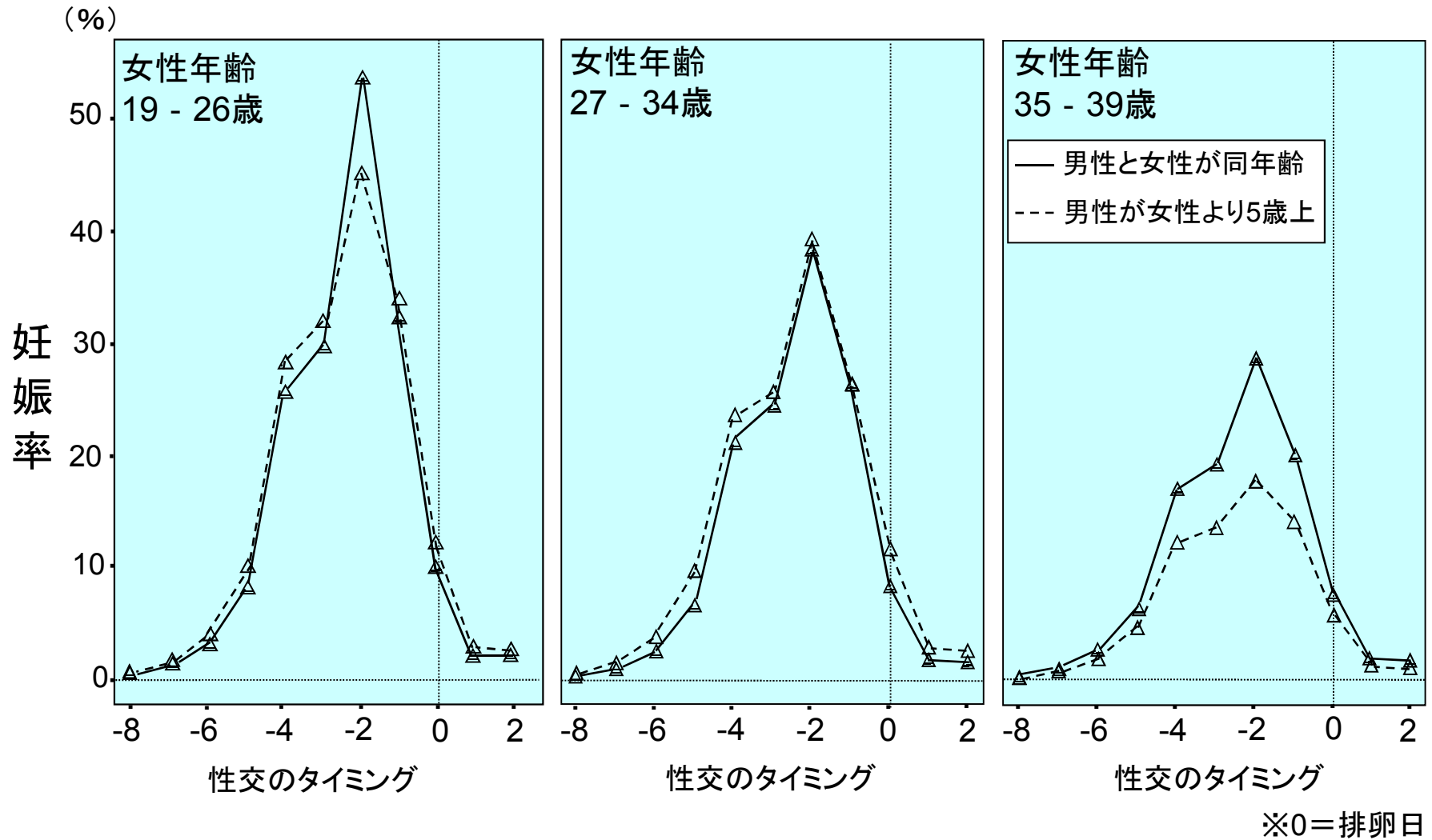
(厚生労働省, 平成22、23年度「出生に関する統計」の概況、人口動態統計特殊報告)

# OECD加盟国の第1子出生平均年齢(2008年発表)



(備考: カナダ、イタリアは2007年、メキシコ、アメリカ、フランス、イギリスは2006年、オーストラリア、デンマーク、日本、韓国、ニュージーランドは2005年の平均年齢を使用)

# 年齢別にみる排卵と妊娠率の関係



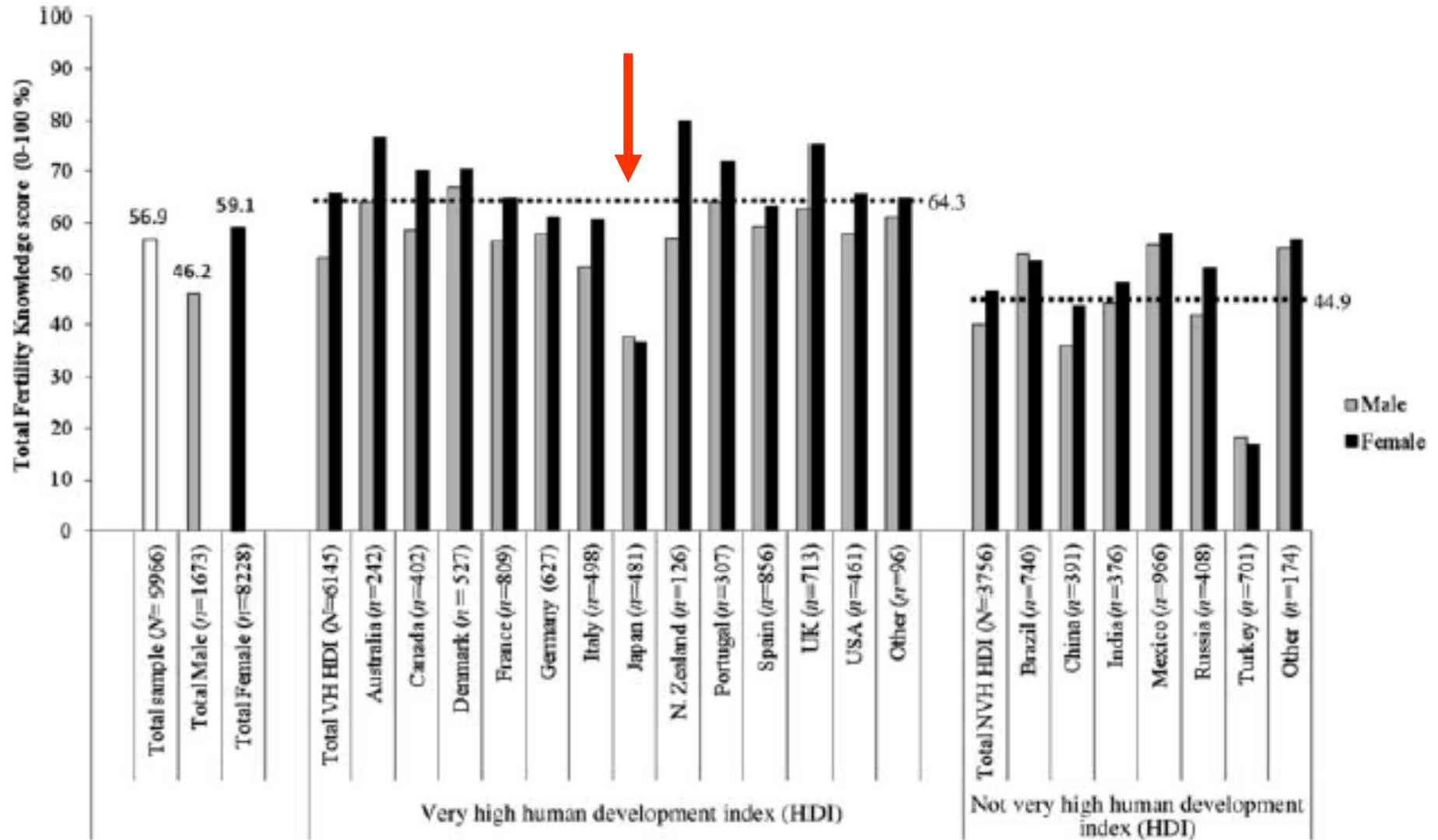


本邦では妊娠に関わる  
知識が普及していない

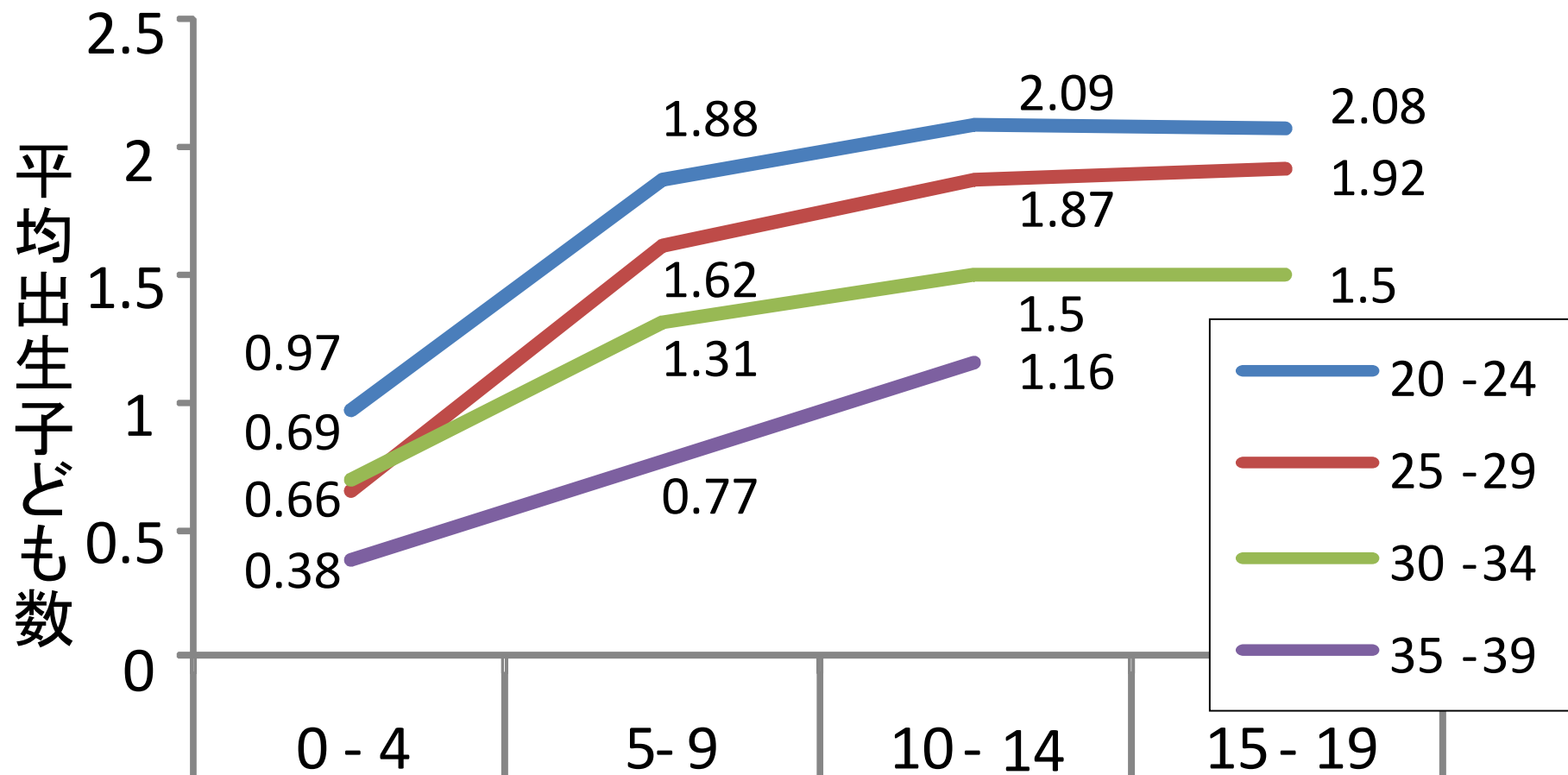
○加齢と妊孕性

○加齢と妊娠後のリスク

# 妊娠に関する知識の習得度(国・男女別)



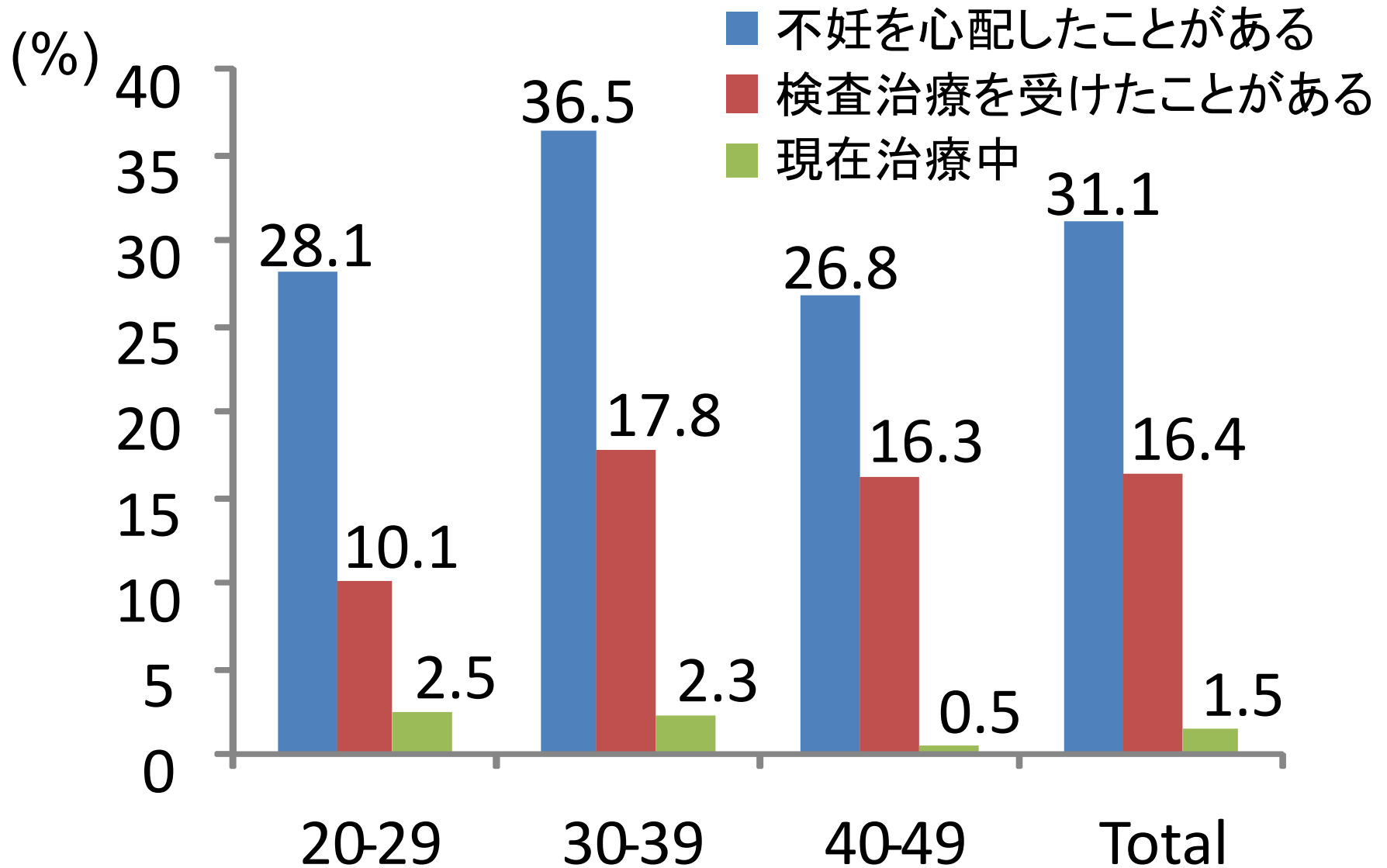
# 妻の結婚年齢別にみた、結婚持続期間別 平均出生子ども数



結婚持続期間

国立社会保障・人口研究所  
第14回出生動向基本調査

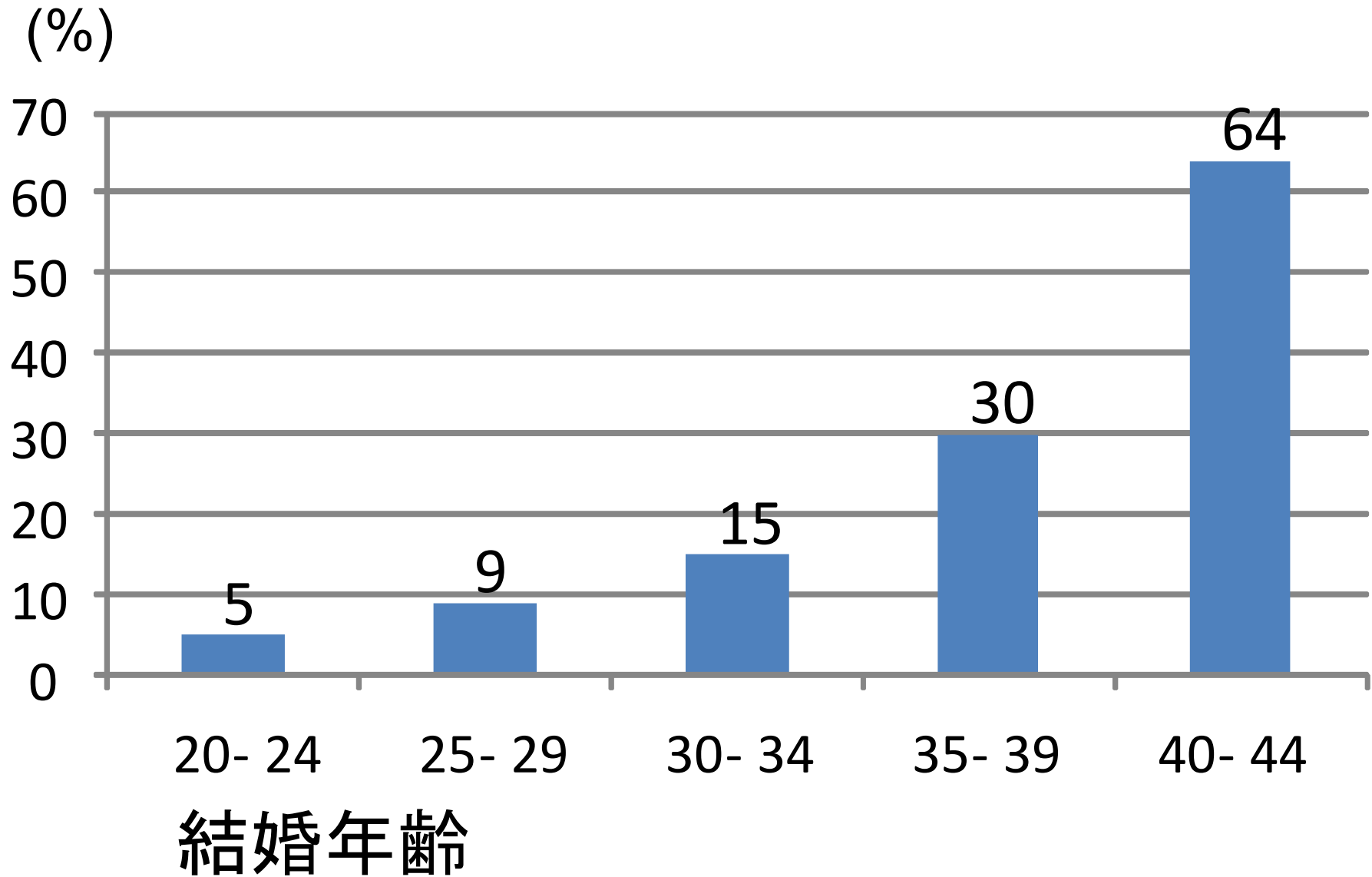
# 妻の年齢別にみた、不妊についての心配と治療経験



妻の年齢

国立社会保障・人口研究所  
第14回出生動向基本調査

# 結婚年齢と生涯不妊率の関係



Menken J et al:Science233(4771): 1389-94, 1986

# 母の年齢と自然流産率

母の年齢が高くなるほど、自然流産率が高くなる。

年齢区分	妊娠例数	流産例数	流産率(%)
24歳以下	90	15	16.7
25～29歳	673	74	11.0
30～34歳	651	65	10.0
35～39歳	261	54	20.7*
40歳以上	92	38	41.3*
合計	1,767	246	13.9

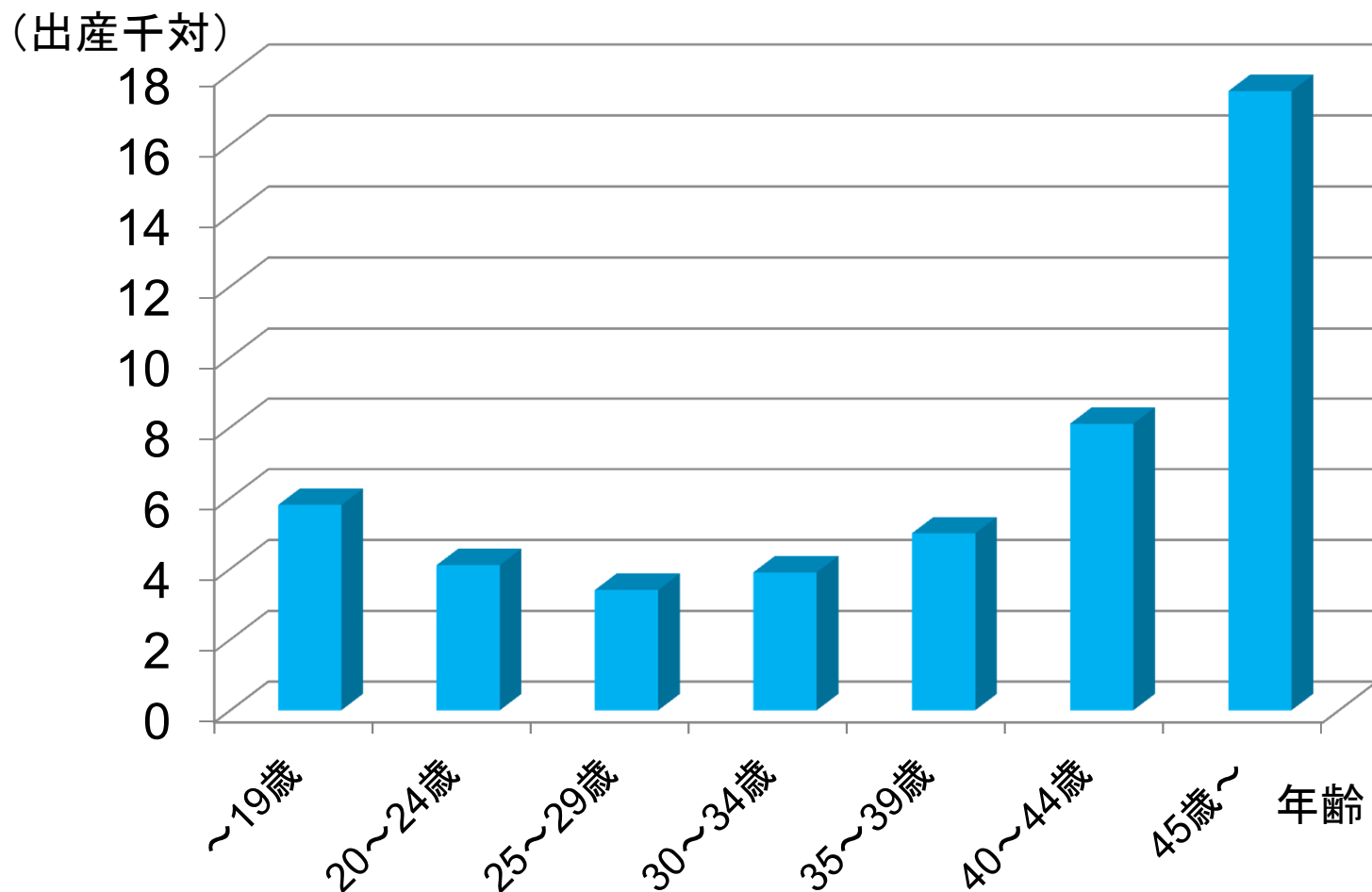
\* 25～29、30～34歳の群と比較して有意差あり( $p < 0.01$ )

資料: 虎ノ門病院産婦人科 1989.1.～1991.7.データ

母体年齢と流産 周産期医学 vol. 21 no. 12, 1991-12

# 母の年齢と周産期死亡率

周産期死亡率は25～29歳で最低で、母の年齢が高くなると周産期死亡率も高くなる。



周産期死亡：妊娠満22週以後の死産と早期新生児死亡の合計

資料：厚生労働省人口動態統計(平成22年)

# 母の年齢と子どもの染色体異常のリスク

母の年齢が高くなるほど、染色体異常のリスクが高くなる。

母の年齢	ダウン症の子供が生まれるリスク	何らかの染色体異常をもつ子供が生まれるリスク
20	1667人に1人	526人に1人
22	1429人に1人	500人に1人
24	1250人に1人	476人に1人
26	1176人に1人	476人に1人
28	1053人に1人	435人に1人
30	952人に1人	384人に1人
32	769人に1人	323人に1人
34	500人に1人	238人に1人
36	294人に1人	156人に1人
38	175人に1人	102人に1人
40	106人に1人	66人に1人
42	64人に1人	42人に1人
44	38人に1人	26人に1人
46	23人に1人	16人に1人
48	14人に1人	10人に1人

資料: Hook EB (Obstetrics and Gynecology 58:282-285, 1981)

Hook EB, Cross PK, Schreinemachers DM (Journal of the American Medical Association 249(15):2034-2038,



# 母の年齢と妊娠中の異常

40歳以上では妊娠中の異常(産科合併症)の発症頻度が高い。

主な妊娠中の異常(産科合併症)	40歳以上の頻度 (20~34歳を1とした場合)
妊娠高血圧症候群	2.5倍
前置胎盤	3.5倍
胎盤早期剥離	1.5倍